

# 四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

## 談話室 Vol. 89

### 「濁水と森林崩壊」

高知県 香美市長

かどわき  
門脇

まきお  
槇夫



香美市は、四万十川、仁淀川と並ぶ高知県下 3 大 1 級河川の 1 つ物部川の上中流域に位置する 3 町村が合併し、平成 18 年 3 月に誕生しました。面積は約 538km<sup>2</sup>、北部山間地域の地形は、概ね 1,000~1,800m の高峰が周囲にそびえることから急峻で、棚田や集落が広範囲に点在しています。人口の 3 分の 1 は平野部に集中しています。年間降水量は、平野部の 2,400mm に対して山間部では 4,000mm を記録することもあり、温暖な気候とあいまって森林資源の形成や農作物の育成に適した地域です。

香美市の約 9 割を占める森林の多くは、剣山国定公園、奥物部県立自然公園、龍河洞県立自然公園に指定されており、物部川及び支流は、高知県でも有数のアメゴ、アユの釣り場であり、カワセミ、ホタルなども観察され、紅葉で名高いべふ峡、轟の滝（日本の滝百選）などがあります。

このように、自然に恵まれた環境であります。香美市を流れる物部川は近年濁水に悩まされています。集中豪雨のたびに上流域で山崩れが起こり、大量の土砂が川へ流れ込み、下流域に長期にわたり濁水をもたらすためです。濁水の長期化は川の生態系を破壊し、河床の環境を悪化させ、漁

業者に深刻な被害をもたらし、用水路の水を使う農家にも濁水散布被害が発生しています。

山林崩壊の主な原因は山の荒廃であり、その要因としては、山林火災(93年発生 476.66ha 焼失)、棚田の減少、ニホンジカ等有害獣増加による食害の深刻化などがあげられますが、そのほか高度成長期に大規模に行われた拡大造林によるものがあります。天然林を伐採し植えられたスギ・ヒノキが成長盛りの時期で多くの水を吸い上げ、その結果山の保水力の低下を招いています。また、林業の衰退により放置され間伐の行われていない人工林はモヤシ林状態で、根の張りが浅く土壌を抑える力が弱いため崩壊が生じやすくなっています。

濁水の原因としては、そのほかに物部川の 3 つのダムに大量に堆積されたヘドロの流出や流域の生活排水等が考えられます。

頻度が増加する豪雨や急激に増加した有害獣も温暖化の影響によるものと考えられ、元を正せばこれらの事は利益・利便性を追求した人間に原因があります。自然の警鐘は至るところで鳴らされ始めています。手遅れかもしれないが私たちはこの問題に真剣に立ち向かっていかなければならない。



西日本を代表する名山「三嶺」  
頂上からの眺望はまさしく絶景です。四国山地の主峰、太平洋なども見渡せ、また、樹齢数百年の大木が林立する高知県下で最大級の自然林が残されています。



大規模な山崩れのあと。山肌があらわになっている



青く澄んだ清流物部川



平成 19 年台風 4 号が通過して 10 日経過後の物部川